



ガーデン視察会の様子  
花壇デザインの参考にしました



グループごとにデザインを検討  
活発に意見を交わしました

## 地域の花と緑の アドバイザーをめざして

仙台市では、花や緑による潤いのあるまちづくりや地域のコミュニティを育むことを目的として、コミュニティガーデンづくりを推進しています。8月から11月にかけて、地域のガーデンづくりを支えるアドバイザーの養成講座を開催しました。

花と緑の力で3.11プロジェクトみやぎ委員会委員長・鎌田秀夫氏を講師に迎え、24名の市民の方が全8回の講座に参加しました。講座の前半では、植物の選び方、デザインの考え方、土づくりなどの花壇づくりの基礎知識を学びました。講座の後半では学んだことをもとに、グループごとにアイデアを出しながら、デザインを考え、七北田公園で実際に花壇づくりを行いました。

講座では、花壇づくりの基礎の他に「楽しみながらみんなで花壇づくりを行うためのこつ」や「継続して活動を行うためのこつ」も教わりました。参加者の間には、花や緑を通じたコミュニケーションが生まれ、今後の活動での再会を楽しみに、講座は終了しました。今後、仙台市では、学んだことを生かしていく機会をつくるとともに、より多くの方々にアドバイザーになっていただけるよう講座などを企画していく予定です。

花と緑のアドバイザー養成講座に関するお問い合わせは  
仙台市建設局百年の杜推進課 022-214-8389まで



植え付け作業  
宿根草を一年草と組み合わせて植えました

一列に並んで土づくり  
木の根を取り除くのに苦労しました

\*\*\*参加者の声\*\*\*  
町内会や学校で学んだことを生かしていきたい！  
すぐに役立つ内容だった  
1年を通じた管理を学んでみたい  
花壇づくりにはコンセプトが大切だといことが分かった



## 日本の元気の、主食なんです。



ひとめぼれ  
宮城を代表する主力銘柄

だて正夢  
もちもち食感の新銘柄

ササニシキ  
和食との相性抜群

金のいぶき  
手軽に炊ける玄米専用品種

宮城の生産者は、人と環境にやさしい米づくりに取り組んでいます。農業や化学肥料の使用量を通常の半分以下に減らし、手間をかけ、丹精こめて生産しています。それが「みやぎの環境保全米」です。今では県全体の水稲作付面積の3割まで拡大しています。  
「環境保全米」は、このマークが目印です。

宮城米及びキャンペーンについて詳しくは  
あしたの元気!宮城米 <https://m-hozenmai.jp/>

「うまさにはちずみやぎ米」  
YouTubeチャンネル  
サンドウィッチマンのTVCMや  
みやぎ米のレシピ公開中!

このままでは花壇をつくるのが難しいことが分かり、何か利用できそうな支援制度がないか調べていたところ、あしたのみどりキャンペンの「植樹花壇づくり支援」のことが知り、応募に至りました。



自宅全長の沼田和雄さん。地、の境が思いどよう望を受け、花壇をつくることに

入居者のほとんどが震災の被災者です。高齢者が多いので、憩いの場として花壇をつくれなかつたという話になったので、す」と語るのは大和町市営住宅自治会会長の沼田和雄さん。「自分たちでも花壇をつくれなかつた状況がスコップで掘って、みたく、土が固くて掘るのができませんでした。

空き地が三角の形状だったため、それぞれあわせて花壇も緩やかなV字状の形状。初日の14日は、まず花壇の外枠となるレンガを縦に並べることから始めました。敷地が傾斜しているため、高さをそろえるのに「苦勞」を水平に調節し、それに合わせて男性陣が糸を張り調整しながら丁寧に並べていきました。低い場所はレンガの露出する部分が多かったので、しっかり固定できるように下部はモルタルを使って固定。この日の作業は、花壇の枠をつくることで終了しました。



緩やかなV字型の花壇の真ん中、黄色のピオラを前にして、みなさんと記念撮影。チューリップの球根が土の上に置かれており、このあと手分けして、一個一個丁寧に植えていきました



レンガの脚を揃えて並べるのに手間がかかり、1日目はそれだけで終了。2日目は、宿根草の配置を決めた後、ボールから取り出して移植。次にピオラを植え付けていきました



レンガの脚を揃えて並べるのに手間がかかり、1日目はそれだけで終了。2日目は、宿根草の配置を決めた後、ボールから取り出して移植。次にピオラを植え付けていきました

### 緑の空き地を活用し 緩やかなV字の形状に

### 資材と工夫を凝らして ローメンテナンスを追求

翌15日、いよいよ花壇づくりの開始。まずはレンガやハーバ、ペロニカなどの宿根草のボールを土の上に置いていきます。宿根草の配置が決まったら、次はピオラ、黄や青など色ごとに分け、同じ色を決まったエリアに置き、ようやく植え作業です。



10階の自宅ベランダでは、マルゴールドやピオラを育てている佐々木里美さん



花壇の中で白く見えているのが、最後にかぶせた軽質土壌。通気性抜群で、排水が早い。水持ちがよいという特徴があり、草取りが楽に入ります

# 杜の都の新たな魅力と潤い みどりと花でつくりだそう

高層住宅に住む市民のために  
憩いの場となる花壇を 大和町市営住宅自治会



仙台駅。ペDESTリアンデッキに  
花のある風景を 一般社団法人「花降る街 仙台」

### プロと市民が一緒に 作る花壇

仙台市内の花屋フローリストが集まり、市民に花の魅力楽しさを届け、花のある生活を提案している一般社団法人「花降る街 仙台」。9月27日、市の市民協働事業に選ばれたプロジェクト「花降る街 ペDESTリアンデッキ」の活動の1環として仙台駅の交番前にある花壇に、市民の方も参加して宿根草と低木を植える作業を行いました。

花壇づくりに集まったのは、フローリストはじめガーデンデザイナーや生産者など、花に関わるプロと市民の方々。花壇の設計は、ガーデンデザイナーの田代吉宏さんが担当。ビジネススマイルや旅行者が仙台駅を降り立ち、最初に目に入る花壇の面は特に配慮しました。花壇の前には、ベンチに座って写真を撮った際、周りに花がきれいに見えるようデザインされています。



丸森町でガーデン用の宿根草を栽培している鈴木孝さん

当日は、丸森町で草花の苗を育て、提供している鈴木孝さんも参加。「こうした場所に植える宿根草は、ヨロヅバが適したものが多くありますが、できるだけ日本の気候に合ったものをヨイスし、さらに日本の気候に近いものも含めることで、日本の気候に合ったものも入ることで、日本の自然環境にも合うものになりました。そして選定の基準を話してくれました。

### 花が生み出す心のゆとりが 人や環境を思う気持ちに

花壇の上に並べられた苗は参加者の手で手際よく植え付けられ、花壇づくりは短時間で完了。インスタグラムでの募集告知を見て参加した林理美さんは、「杜の都に住んでいるので、緑の多い街にならいいな」と思っており、機会があれば今後参加したい」と活動の理解を示してくれました。



ガーデンデザイナーの田代吉宏さん。春から秋にかけて咲く花を多く選定

あしたのみどりキャンペーンでは、山田さんたちの活動をサポートするときに、今後もみどり豊かな杜であり続けることを願って、市民一人一人にみどりを育むための活動を広げたいことを目指し展開していきます。



花を通して環境も考えたいと願う「花降る街 仙台」代表の山田さん



仙台駅交番向かいのペDESTリアンデッキに設けられた花壇に「花降る街 仙台」のメンバーと一般参加者の方々と、手分けして宿根草と低木を植えていきました



植えた宿根草は、カラシキヤやエビメドウ、カレンデュラなどさまざま。「花降る街 仙台」のみなさんはプロなので手際がよく、花壇づくりは思いのほか短時間で完了しました

あしたのみどりキャンペーンは、市民・企業行政が一体となり、杜の都のみどりを未来につないでいくことを目的に、2009年にスタートし、今年で12年目を迎えました。今回の紙面では、みどりを育むために植樹や花壇づくりなどを希望した、学校・地域・団体の中から、実際に花壇づくりを実施した活動の様子と、市の市民協働事業に選ばれた団体への支援活動をご紹介します。